

令和 5 年度
中国環境パートナーシップオフィス
中国地方ESD活動支援センター
業務実施報告書(概要版)

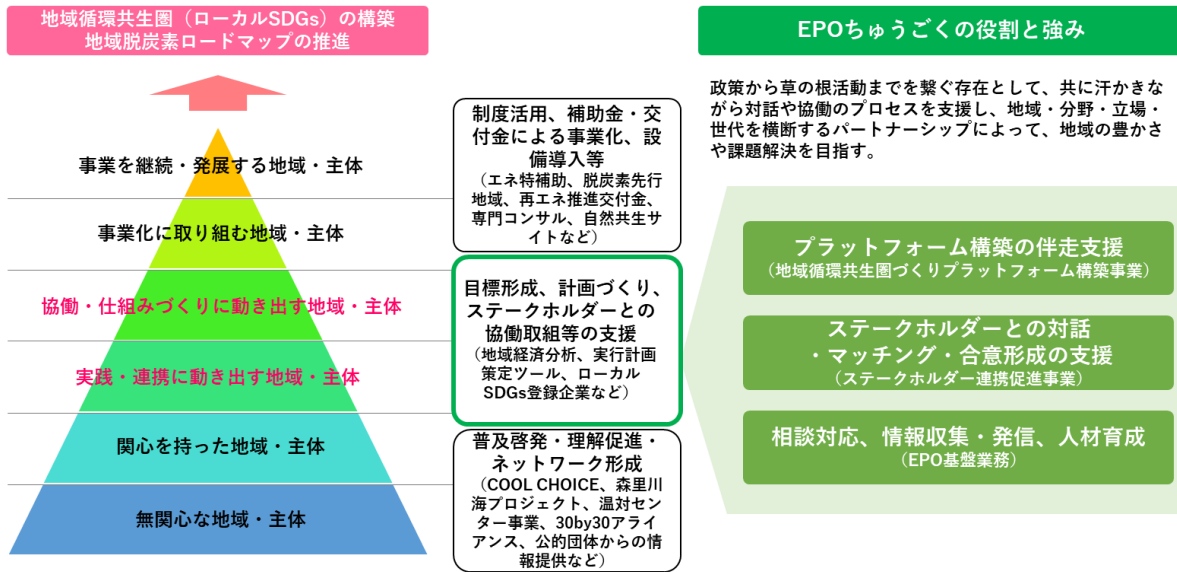
運営団体: 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター

1 業務方針

① EPO ちゅうごく

地域循環共生圏の構築や脱炭素地域づくりの協働プロセスを支援するパートナー

EPOちゅうごくは、地域循環共生圏（ローカルSDGs）や地域脱炭素ロードマップ等を推進するために、環境教育等促進法第19条の拠点機能を基盤として、近年に培ってきた経済セクターや金融機関を含む幅広いネットワークを活かしながら、多分野・主体と共にアプローチするための中間支援組織（NPOや環境活動の支援セクター、温暖化防止活動推進センター、ネットワーク組織）等との連携を強化し、地域循環共生圏の構築や地域脱炭素ロードマップの推進に向けて「実践・連携に動き出す地域・主体」及び「協働・仕組みづくりに動き出す地域・主体」を主なターゲットとして、EPOちゅうごくが持つ強みやノウハウを活かした業務を展開する。



② 中国地方 ESD センター

SDGsと気候変動教育を推進するための担い手育成

中国地方ESDセンターは、中国5県全てに登録されている11の地域ESD活動推進拠点と連携して、学校・社会教育のみならず様々なフィールドにおいて各地域の特色あるESD取組を支援し、近年に拡充したユース（若年層の社会人、大学生、高校生）やローカルSDGsのネットワークを活かしながら、SDGs達成のためのプロセスを促進する。

また、気候変動を切り口として、社会を変えるために実践できる人づくり、脱炭素地域づくりと連動した教育実践、多様な価値観と対話による協創、気候変動対策（緩和と適応）を両立させる教育を推進するため、学校・社会教育拠点・ビジネスセクターをメインターゲットとして、個人の変容から社会の変容に向けてフォーカスした「ESDネットワーク×気候変動教育」のアクションを支援すると共に、ESD活動による教育の効果を可視化・評価する業務を展開する。

中国地方ESDセンターの役割と強み

環境省・文科省・地域を横断するネットワーク拠点として、中長期的にESDのノウハウや成果を蓄積しながら、地域ESD拠点との連携や機能強化を図り、ESD for 2030に向けた人材育成と社会を変革するための基盤構築を担う。



目的とする変容の対象（フォーカス）

	Focus 1 学習者の変容	Focus 2 教育者・実践者・組織の変容	Focus 3 ネットワークの変容	Focus 4 仕組みの変容	Focus 5 社会的インパクト (めざしたい状態)
学校					
社会教育拠点					
ビジネスセクター					
連携プラットフォーム支援体（自治体、温暖化防止センター、他）					

実践の対象・体制（対象領域）

全国のESD推進ネットワークで取り組む「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」をベースに、「フォーカスする変容（誰・何のどのような状態）」や「実践方法（体制と手法・作用）」を記入して、変容の目標と進捗を可視化・共有し、ネットワーク全体の事業評価にも適用する。

ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

2 EPO ちゅうごく業務

(1) 基本業務

① Web サイト等を活用した情報発信、PR

EPO ちゅうごくのホームページ、SNS 等を活用し、各事業の実施状況のほか、行政機関の動き、公募・助成金情報、イベント情報等を地域内外に発信した。また、内容に応じ広報誌の作成やメーリングリスト等の活用による情報発信も行った。

<主な実績>

- ・情報（書籍、雑誌、会報、報告書、行事広報等）収集数：計 446 点
- ・ホームページ情報（行事、補助金・助成金、公募・募集、環境の話題等）発信数：計 1,042 件
※積極的に収集・発信した情報…脱炭素地域づくり：計 54 件、OECM 関連：計 43 件
- ・メールマガジン（定期・臨時）発行数：12 回（3/15 時点で 990 件登録）
- ・SNS 発信数：27 回
- ・EPO ちゅうごくの行事開催報告（随時掲載）

② 相談対応・対話の場づくり等

環境教育等促進法第 19 条に基づく拠点として、地域循環共生圏の構築や地域脱炭素の実現などに関する各種情報紹介及び相談者からの相談に対応し、助言や各種会合への参加等を行うこととし、必要に応じてパートナーシップ形成のための対話の場づくり、過去に対応した案件についてフォローアップを行うとともに、相談ニーズに応じて、関係構築、連携強化を目的として、EPO ちゅうごくとのパートナーになり得る主体が開催するイベント・セミナー等へ参加、主催者等の求めに応じた必要な開催協力、イベント・セミナー等広報協力を行った。

<問い合わせ・相談実績>

- ・広報協力、EPO 事業関連、情報収集、人材・事例紹介、団体活動や事業支援相談等：計 133 件

<主な対話の場づくり・開催協力等>

- ・認定 NPO 法人瀬戸内オリーブ基金／海ゴミ問題について広島県内の活動団体紹介、意見交換
- ・一般社団法人地球温暖化防止全国ネット／地球温暖化防止活動推進センター中国・四国ブロック会議への出席、情報交換（2 回）
- ・一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク／SDGs・EPO・ESD に係る全国ネットワークの連携による SDGs サミット（ニューヨーク開催）におけるアドボカシーや関連イベントへの参加、情報収集、海外ネットワークとの関係構築に係る検討
- ・やまぐち県民活動支援センター／「協働ファシリテーター基礎講座」「山口県協働ファシリテーション事業」講師（4 回）
- ・中国 5 県中間支援組織連絡協議会／「中間支援組織役員向け合同研修」共催
- ・公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会／EXP02025 大阪の出展スペース利活用による ESD との連携について近畿・中国・四国 3 地方の ESD センターと関わり方について意見交換
- ・公害資料館ネットワーク／「公害資料館連携フォーラム in 福島」参加
- ・広島湾さとうみネットワーク／企画運営委員就任

③ 全国事業に関わる業務

環境本省・地方環境事務所・GEOC・各地方 EPO による情報交流を通して、EPO ネットワーク事業における政策コミュニケーションやインパクト評価、ノウハウ蓄積、課題の共有と解決、スタッフの連携、育成を行った。

<出席した会議>

- ・パートナーシップタスクフォース（8/4、東京都渋谷区、オンライン会議併用）／協働取組事業を取り巻く現状や課題を過去の事例から整理・検証、協働取組による効果最大化の議論
- ・第1回全国 EPO 連絡会（5/30、東京都渋谷区、オンライン会議併用）／年間スケジュールと各事業で目指す目標の確認、EPO ネットワークとして取り組むべき層構成の議論
- ・第2回全国 EPO 連絡会（10/18～19、北海道網走市、オンライン会議併用）／EPO ネットワークが果たしてきた機能と社会的ニーズを踏まえこれから果たすべき機能を議論
- ・第3回全国 EPO 連絡会（1/23～24、東京都渋谷区、オンライン会議併用）／EPO が果たすべき中間支援機能や協働取組支援のあり方の議論、次年度事業の内容や方向性の意見交換

④ 地方 EPO ネットワークとの情報交換会

持続可能な地域づくりにおいて地方 EPO が身につけておくべき最新のトピックをテーマに情報交換を行った。

<出席した情報交換会>

- ・情報交換会（12/22、オンライン会議）／テーマ：30by30・自然共生サイトやサーキュラーエコノミーなど新たな取組が求められている環境政策の中で EPO が果たすべき機能について意見交換

⑤ EPO ネットワークの連携強化

中国四国地方環境事務所管内の地方 EPO 間連携を強化するため、高松市で開催される四国地方環境パートナーシップオフィス（四国 EPO）運営委員会へ出席し、取組状況の把握に努めた。

<出席した会議>

- ・第1回運営委員会（7/18、香川県高松市、オンライン会議併用）／令和5年度事業計画の確認と連携による取組の意見交換
- ・第2回運営委員会（3/17、香川県高松市、オンライン会議併用）／令和5年度事業の実施報告と次年度に向けた取組の意見交換

（2）地域循環共生圏の創造及び地方創生に資する地域脱炭素実現に向けた業務

① 地方プラットフォームの環境整備支援等業務

中国地方の支援事務局として採択団体に必要な支援を実施することを通して、全国的にモデルとなる地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築を支援した。また、環境本省をはじめとする関係機関と共に全国の進捗共有や事業スキームの改善を図りながら事業を推進した。

<実施概要>

地域循環共生圏構築に向けた環境整備（構想づくり、体制構築、実現のための取組検討、中

長期目標指標検討)を行う2団体に対し、中国四国地方環境事務所と連携して必要な支援を行った。

<支援した団体と取組概要>

・瀬戸内市(岡山県瀬戸内市) / 1年目

市内唯一の高校を核に学校教育と社会教育を融合させるツールとして、「瀬戸内市オリジナルのSDGsカードゲーム」を制作し、そのプロセスを通して瀬戸内市に愛着を持って応援してもらえる人材を育成する。瀬戸内市に関わる市内外の関係者がありたい未来に近づくために語り合う場を構築し、そのネットワークを生かして、それぞれの得意分野を持ち寄ることで、自らの力で地域課題を解決する自立・分散型の地域を目指す。

・株式会社YMFG ZONE プラニング(山口県大島郡周防大島町) / 1年目

町内唯一の高校で授業を通じて高校生が提案する地域課題解決型プロジェクトを、町内外の企業・事業者、金融機関、行政機関、地域活動団体等が連携して応援(実行、実現化)する体制を構築し、環境(ニホンアワサンゴをはじめとする自然景観の保全、担い手育成フィールドとしての活用を通じた保全の促進等)、経済(次世代の担い手による地域課題解決産業の創出(企業等)、エコツーリズムプログラムの活性化による消費拡大等)、社会(次世代の担い手の育成・地域創生教育のモデル地域化・新たな人(子供)の流入拡大等)の3側面が連動・循環する地域づくりを目指す。

(注)地名の表記は、対象事業の活動地域。

<情報共有、相互参照の機会>

- ・キックオフミーティング(6/7、オンライン会議) / 全ての取組団体が集まり、年間実施計画や取組目標の共有、意見交換を通じてブラッシュアップを行うサポートをした。
- ・各団体との定期的なミーティングにより進捗状況や直面する課題を把握し、アドバイスや課題解決につながる情報提供等を通じてプラットフォーム構築プロセスのブラッシュアップを図った。
- ・中国ブロック中間共有会(10/25、山口県大島郡周防大島町) / 中国地方2団体が集まり、中間段階の取組状況共有と有識者を交えた意見交換によって、取組課題へのヒントやアプローチを探った。
- ・各団体が取組関係者を集めて開催するステークホルダーミーティングにおいて企画への助言や運営支援を行った。
- ・成果共有会、ネットワーキングイベント(3/7~8、東京都千代田区) / 全国取組団体が集まり、1年間の取組成果発表と質疑応答を通して取組のバージョンアップをサポートするとともに、活動団体間の相互参照、情報交流により今後の活動に資する関係構築を図った。

<支援事務局関係者との議論>

- ・共有会(5/16、オンライン会議)、第1回作業部会(9/11、東京都渋谷区、オンライン会議併用)、事業形成会議(12/8、オンライン会議)、第2回作業部会(2/9、東京都渋谷区、オンライン会議併用)において、支援事務局(環境省、地方環境事務所、EPO/GEOC、有識者等)による進捗状況や課題と打ち手の共有、事業スキーム改善のための検討、次年度事業に向けた事業設計について議論した。
- ・プラットフォーム環境整備から次のステップ(具体的な事業化)に取り組む団体の活動状況や支援事務局のサポート内容について情報収集し、支援事務局の議論に応用した。

<卒業団体フォローアップ>

- ・過年度の採択団体について、その後の取組状況をフォローアップするため、萩・森倫館(山口県萩市)についてヒアリングを行い、取組の継続や発展に至るポイント、或いは新たな課題について把握した。

② 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用

身近な自然資本を活用した中国地方の地域づくりの先行事例発表、意見交換を通して、OECMの発掘、自然資本を基盤とする地域づくりに関するパートナーシップの促進及び生物多様性のための30by30アライアンスや自然共生サイトへの理解・参加の促進を図った。

<実施概要>

OECMやネイチャーポジティブに関心のある主体、またはそのような取組を既に行っている団体等について、ネイチャーポジティブに対する向き合い方や取組状況について情報収集するとともに、自然共生サイトの制度等の周知や取組を促進するための情報交流等を支援した。

<実施した情報交換会>

- ・主なヒアリング先／アサヒグループジャパン株式会社アサヒの森環境保全事務所（広島県庄原市）、広島電鉄株式会社、中国電力株式会社、広島ガス株式会社、株式会社ひろぎんホールディングス（いずれも広島県広島市）、認定NPO法人三段峡-太田川流域研究会（広島県山県郡安芸太田町）、北広島町（広島県山県郡北広島町）等
- ・企業・NPO・行政がつながる情報交換会（1/18、広島県広島市）／生物多様性保全に取り組む多様な主体に対してOECM等に係る環境省政策解説や企業・NPO・行政の取組事例を題材とした情報交換会
- ・森里川海プロジェクト企業交流会企画定例会（2/20、オンライン会議）／ローカルSDGs・ネイチャーポジティブに関心ある民間企業による次年度開催予定の企業交流会について企画連携に向けた議論に参加した。

③ 地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業

地域に存在する「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」をつないで、グリーンでレジリエントな「地域循環共生圏」のドミノを地域内に波及させる地域内の対話を促進するため、中国四国地方環境事務所地域脱炭素創生室や全国地球温暖化防止活動推進センター等と連携して自治体や企業の対話の場づくりを行った。

<実施概要>

【企業向け】鳥取県温暖化防止活動推進センターと連携し、鳥取県内の地域金融機関5行と脱炭素地域づくりに資する具体的なアクションを考える企運の醸成や相互連携の構築を目的に、全国的な脱炭素の取組動向や金融機関による取組事例の情報提供、意見交換を支援した。

【自治体向け】鳥取県の北栄町役場が取り組む脱炭素ロードマップの実現に向けて、行政政策と民間（町民や事業者等）が連動した取組への意識を高めるための勉強会、情報交換会を開催し、町民の具体的なアクションにつなげるための自分事化を支援した。

<実施した情報交換会・ワークショップ等>

- ・【企業向け】第2回(*)脱炭素経営情報交換会（8/2、鳥取県倉吉市）
- ・【企業向け】第3回脱炭素経営情報交換会（11/29、鳥取県倉吉市）
- ・【自治体向け】第1回ほくえい未来トーク2023（11/12、鳥取県東伯郡北栄町）
- ・【自治体向け】第2回ほくえい未来トーク2023（11/25、鳥取県東伯郡北栄町）
- ・【自治体向け】脱炭素先行地域に関する意見交換会（3/9、鳥取県倉吉市）

(*)昨年度、鳥取県温暖化防止活動推進センター単独で第1回が開催されていた

(3) 中間支援組織の強化・活動支援

① 地域循環共生圏づくりネットワークの支援

第6期EPOちゅうごく業務において開発した「ローカルSDGsの担い手育成プログラム」(以下、プログラムと記載)の水平展開、地域循環共生圏(ローカルSDGs)づくりを担う実践者や支援者育成のため、ニーズ調査及び同プログラムに関するフォローアップ調査を行った。

<実施概要>

これまでに連携・交流実績のある安田女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科(広島県広島市)、とっとり県民活動活性化センター(鳥取県倉吉市)へのヒアリング、意見交換を行い、プログラムへのニーズを探った。また、プログラムの作成に連携して取り組んだ認定NPO法人自然再生センター(島根県松江市)へのフォローアップインタビューを行い、プログラム作成のプロセスが人材育成に寄与したとの成果を得た。

② G7 広島サミットに向けた市民会議の開催

広島で開催されたG7広島サミットに際し、全国・世界から集って開催される「G7広島市民サミット」や「G7市民社会コアリション2023」等と連携して、G7広島サミットの主要課題や地域課題に関する意見交換、学び合いを行い、G7諸国の首脳への政策提言やアクションプランの作成支援を行うとともに、パートナーシップ形成を図った。

<共催した会議>

- ・みんなの市民サミット2023(4/16~17、広島県広島市) / 「核のない、誰ひとり取り残さない、持続可能な社会」の推進を目的に、国内外の市民社会組織等が広島に集い、G7サミットや社会課題に対する理解を深めるとともに、国内外の市民社会組織によるワークショップを展開し、市民の参加やNPO/NGO等のアクションに向けた市民サミット共同宣言を取りまとめて発表した。

3 中国地方 ESD センター業務

(1) ESD 活動を支援する情報共有

① 相談対応

ESD 推進ネットワークのハブとして、事業から得られた情報やノウハウ等を活用しながら相談及び照会に対応し、民間団体・地方公共団体双方の取組を支援することを通して、自主的・自発的な ESD 活動や協働の促進に努めた。

<問い合わせ・相談実績>

- ・広報協力、ESD センター事業関連、情報収集、人材紹介、研修・事業の相談等：計 50 件

② 中国地方 ESD センター Web サイトのコンテンツ等の作成、運用等

中国地方の ESD 推進ネットワークのハブとして、全国及び各種のネットワークを活用し、ESD 活動を推進するために必要な情報・知見・ノウハウを収集するほか、国の政策や地域の活動、中国地方 ESD センターの取組等を効果的に発信するとともに、全国・地方センターと連携した情報発信を強化し、ESD の普及・啓発や活動の発展、広域的な情報交流、中国地方 ESD センター業務への理解促進を図った。

<主な実績>

- ・情報（書籍、雑誌、会報、報告書、行事広報等）収集数：計 267 点
- ・ホームページ情報（行事、補助金・助成金、公募・募集、ESD 情報等）発信数：計 253 件
※積極的に収集・発信した情報…気候変動教育：計 26 件、地域 ESD 拠点関連：計 41 件
- ・メールマガジン（定期・臨時）発行数：EPO ちゅうごくメールマガジンと一体で発行
- ・SNS 発信数：20 回

(2) 現場のニーズを反映した ESD 活動の支援

ESD に関連する様々なイベントや会議等への出席を通して、関係機関や地域 ESD 拠点、ESD 実践団体等と情報交流を行い、ESD 推進のための実践者・支援者・地域の支援ニーズの把握やネットワーク形成、中国地方 ESD センター業務への理解促進を図った。

<実施概要>

ESD に関連するイベント等への開催協力や参加について、年間を通じて支援を実施した。また、ESD 推進のための課題や展望に関する現場のニーズを整理するとともに、把握した情報を業務運営に活用した。

<主な支援>

- ・広島 SDGs コンソーシアム／広島大学教育学部教員養成課程カリキュラム・公開セミナー「SDGs 後半年に向けた実践教育」講師
- ・NPO 法人環境パートナーひろしま／「ひろしま環境ミーティング 2023 in 江田島」開催協力

- ・新見ロータリークラブ／プログラム企画支援
- ・安田女子大学ローカル SDGs プロジェクト／ゼミ生のプロジェクト企画・活動の支援
- ・安田女子大学／現代ビジネス学科「ボランティア論」講師
- ・広島市立温品中学校／SDGs 探求学習講師
- ・広島市立大河小学校／授業講師
- ・後援名義申請承諾／5 件

(3) ESD 活動のネットワークの形成、ESD 実践の学びあいの場の促進

① 全国 ESD センター及び地方 ESD センターとの連携強化

全国の関係機関や有識者等が集う会議への出席を通して、環境教育等促進法の基本方針改定に向けた専門家会議の議論も踏まえて、ESD 推進ネットワークの新たな方向性や事業スキームの展開を図り、全国各地の情報共有や連携を促進した。

<出席した主な会議>

- ・第 1 回 ESD 活動支援企画運営委員会（6/27、東京都渋谷区、オンライン会議併用）／今年度の事業計画、地域 ESD 拠点支援のあり方についての検討
- ・第 2 回 ESD 活動支援企画運営委員会（2/27、東京都渋谷区、オンライン会議併用）／今年度の事業報告、次年度の活動計画案の内容や課題の検討
- ・第 1 回 ESD センター（全国・地方）連絡会（5/31、東京都渋谷区、オンライン会議併用）
- ・第 2 回 ESD センター（全国・地方）連絡会（1/24、東京都渋谷区、オンライン会議併用）
- ・ESD センター戦略会議（計 5 回、東京都渋谷区）
- ・環境教育等促進法基本方針の改定に係る ESD センター会議（2/9、東京都渋谷区、オンライン会議併用）
- ・第 1 回作業部会（6/21、東京都渋谷区）／気候変動教育の可視化マトリクスの検討、各センターの学び合いプロジェクト活動計画との整合、進め方検討
- ・第 2 回作業部会（11/15、東京都渋谷区、オンライン会議併用）／各センターの学び合いプロジェクト進捗共有、気候変動教育の可視化マトリクス情報整理、ESD 推進ネットワーク全国フォーラムの運営・役割分担整理
- ・第 1 回四国地方 ESD センター運営委員会（7/13、香川県高松市、オンライン会議併用）／今年度の事業計画、四国地方における気候変動教育のあり方、や社会教育分野との関わり方の議論
- ・第 2 回四国地方 ESD センター運営委員会（3/14、香川県高松市、オンライン会議併用）／今年度の実施報告、四国地方における ESD 推進に向けた現状課題整理と次年度の取組に向けた議論

② ESD 活動に関するネットワークの構築

全国の地域 ESD 拠点や ESD 実践者等と積極的に情報交換を図り、中国地方においても地域資源を活用した学び合いの機会づくりを通して、ユース・指導者・マスコミ等と連携して SDGs マルチステークホルダープロセスを推進する。

また、地域 ESD 拠点の登録支援や継続的なフォロー、他分野・新たな主体の参画を通して、中国地方及び全国の ESD 推進ネットワークの拡充し、地域 ESD 拠点の機能強化を図る。

<開催協力した会議>

- ・ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2023 (12/9、東京都渋谷区) / ESD 推進の最新動向や ESD 推進ネットワークの役割の基調報告、気候変動を切り口とした ESD の意義と広がりに関する全国実践団体及び有識者からお報告

<共催した会議>

- ・SDGs フォーラム in 東広島～多様な参加者同士で考える SDGs 達成に向けた次の一歩と連携～ (12/1、広島県東広島市) / 広島県内の SDGs ビジネス強化、SH 間連携、プラットフォームの活性化に向けて国際・企業・地域・ユースの立場からの取組事例紹介と意見交換

<活動支援した地域 ESD 拠点>

- ・しまね海洋館アクアス / 石見の海の持続可能性をテーマとして身近な海洋環境の変化や地元の水産業の現状、釣り・魚の捌き～料理の体験を通じた海の豊かさの学び合い

(4) 人材育成

ESD を担う人材 (ESD 活動実践者、コーディネーター、ユース等) の育成、地域内外の人材の交流及び学び合いの機会を提供することを目的として、学び合いプロジェクトを実施した。

① 活動計画の作成

地球温暖化防止活動推進センター等と連携し、脱炭素地域づくりに取り組む SH の取材を通じた人材を育成、脱炭素地域づくりの可視化、発信のためのプロジェクトを企画した。

<実施概要>

地域脱炭素の取組を進める鳥取県東伯郡北栄町において、脱炭素のプロセスや具体的な取組実践を可視化し、広く町民への理解と関心を高めるため「脱炭素ロードブック(*)制作プロジェクト」を北栄町とともに企画し、年間活動計画を作成した。

(*)ロードマップに着想した造語

② 学び合いの実施

学び合いのための勉強会や実践者の取組取材を実施し、レポート記事として作成した。

<実施した会議>

- ・第 1 回学び合い (11/12、鳥取県東伯郡北栄町) / 脱炭素勉強会、プロジェクト説明会
- ・第 2 回学び合い (1/14、鳥取県東伯郡北栄町) / 公民館施設や一般家庭のゼロカーボンに資する取組をレポーター (高校生を含む有志) が取材
- ・第 3 回学び合い (1/17、鳥取県東伯郡北栄町) / 地域新電力会社や地方公共団体 (町長) のゼロカーボンに資する取組や政策をレポーターが取材
- ・第 4 回学び合い (2/5、鳥取県東伯郡北栄町) / 取材活動の振り返り、記事原稿の作成

③ 実践活動の実施

②の学び合いを通して得られた成果を広く町民に紹介した。

<実施した活動>

- ・第 3 回ほくえい未来トーク～みんなでやってるゼロカーボン～ (3/9、鳥取県東伯郡北栄町) / 脱炭素ロードマップの達成に向けた 1 年間の取組の振り返り、実践中の取組紹介、脱炭素口

ードブック制作プロジェクトの発表、専門家から取組へのアドバイス

④ 報告

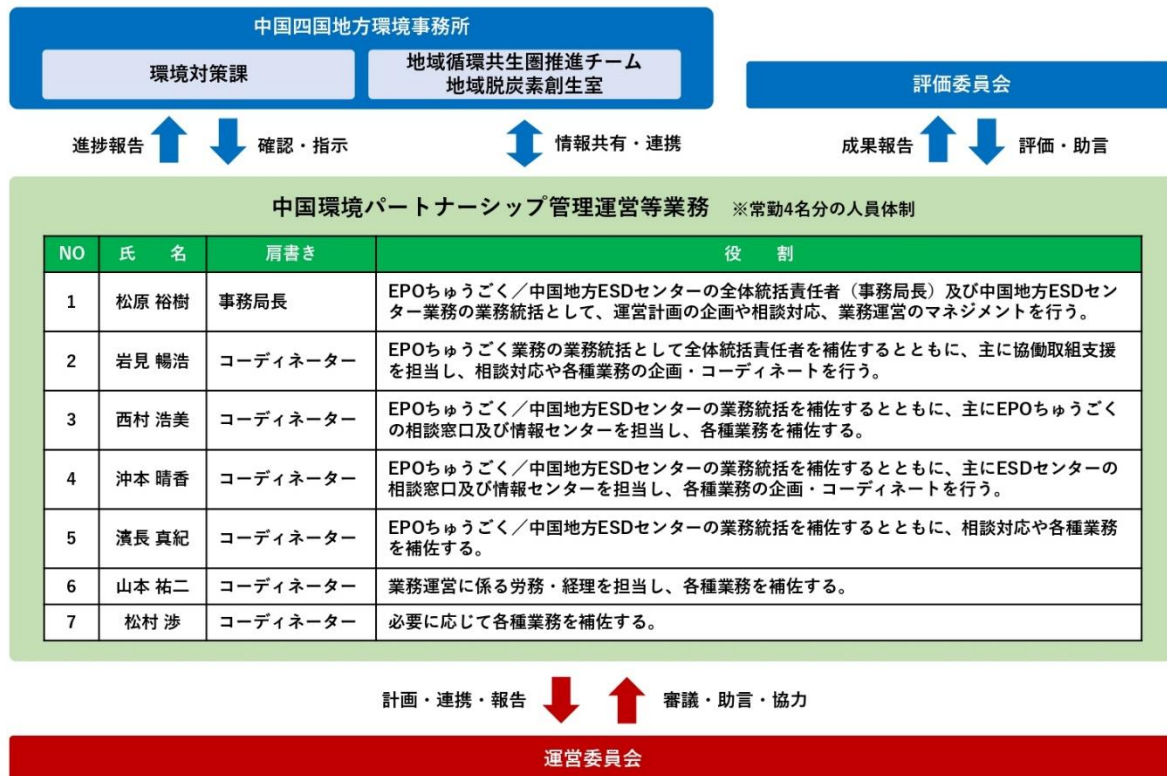
<実施した活動>

- ・ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2023 「ESD for 2023 学び合いプロジェクト実践事例の共有」におけるポスターセッション発表（12/9、東京都渋谷区）

4 管理業務

中国四国地方環境事務所や他地方環境パートナーシップオフィスと連携して、EPO ちゅうごく／中国地方 ESD センターの適切な管理運営に務めた。

【運営体制】



＜実施した内容＞

- ・ 業務目標・業務運営計画の策定
- ・ 運営委員会の設置・開催（第1回：7/25、第2回：3/5）
- ・ 中国四国地方環境事務所との定例打ち合わせ（毎月1回）
- ・ 業務実施報告書の作成